

倉茂好匡著：環境科学を学ぶ学生のための科学的作文法入門（滋賀県立大学環境ブックレット5），サンライズ出版，95ページ，ISBN978-4-88325-442-2 C-1340，2011年3月30日，800円+税

鹿島 薫*

本書は、滋賀県立大学環境ブックレットの5巻として出版された。このシリーズが素晴らしいのは、本書のほか、フィールドワーク心得帖（上）・（下）が、3巻、4巻として出版されていることである。学生はこれらを通読することによって、現地調査の実施、調査結果を取りまとめ、報告書を作成するまでの過程を容易に学習できることである。今の大学生は『ゆとり世代』であるが、既存の文献やホームページなどから、『コピー・ペースト』することは得意であっても、自分の手で新知見を発掘し、それを取りまとめて、作文することは不得手としているように思える。

私も毎年研究室の学生を現地調査に同伴させているが、彼らにとって現地調査は初めての経験でもあり、大自然の営みを探求することには素直に感動し、調査・作業にも積極的に参加するが、その成果を取りまとめ、報告するとなると消極的となってしまう。研究室に戻ってから話してみると、調査の目的や成果については『感覚』としては理解しているのではあるが、それをまとめ、文章として表記することについては、これまで経験が無かったこともあり、どこから手をつけてよいかも良くわかっていないようであった。

倉茂氏も同様に感じられ、本書をまとめられたと思う。

本書の構成は以下のようになっている。

- 1 はじめの問題
- 2 「章」とはなにか、「章」で述べるべきことはなにか
- 3 「段落」とはなにか、「段落」で述べるべきことはなにか
- 4 段落間の論理関係
- 5 段落内の論理関係①一文をシンプルに—
文とはなにか？—主語と述語の見つけ方—／文の種類／主語の省略
／シンプルな文にするには
- 6 段落内の論理関係②—論理の流れ—
- 7 タイプCエラーの克服①—修飾関係をはっきりさせること—
- 8 タイプCエラーの克服②—必要な修飾語や被修飾語を補うこと—
- 9 タイプCエラーの克服③—主語に適切な述語をつなげる—
- 10 タイプCエラーの克服④—主語の明確化—
- 11 おわりに

全体で32の例文と6の例題が示されており、とても具体的に分かりやすい内容となっている。すべての例文や例題では、地形学・環境科学を専門とする学部生や大学院生が、頻繁

に用いる表現が用いられている。本書で述べられている事項はいずれも分かりやすい文章を書くための基本的であり、地形学・環境科学を専門とする学部生や大学院生にとって必読の文献となっている。

なお、本書で指摘されている事項、例えば段落内の論理関係、修飾関係、主語の明確化などは、英文をまとめるときにも注意すべき事項として共通している。文部科学省の施策として、大学教育の国際化が進められており、大学生・大学院生に対して、英語での講演やレポート作成を求める機会が増えてきている。本書は例文を英訳することによって、そのまま『科学的英文作文法入門』になりうるのではないか、本書を読んでいて強く感じた点である。

学部生や大学院生のみならず、彼らを指導する立場にある方々にもぜひ一読されることをお勧めしたい。